

【原著論文】

幼稚園図書室の現状と課題：西宮市内の幼稚園における調査分析

Current Status and Challenges of Kindergarten Libraries:
An Analytical Survey of Kindergartens in Nishinomiya City

佐野友恵*, 金谷美穂**
SANO Tomoe*, KANATANI Miho**

要旨

本研究は、幼稚園図書室の現状と課題を明らかにし、その利用実態および環境の役割を検討することを目的としている。幼稚園図書室の設置は努力義務であり、必置の施設ではないため、図書室の有無や形態、利用方法には多様性が見られる。本研究では、西宮市内の幼稚園を対象に調査を行い、図書室の設置率は63%であることが確認された。また、図書室の形態や利用方法、蔵書数、予算においても大きな違いが見られた。さらに、蔵書管理システムや人員、予算の不足が課題として浮き彫りになり、図書室の環境整備の重要性が指摘された。これにより、幼稚園図書室が単なる図書の保管場所としてだけでなく、幼児の読書体験を支える重要な空間として機能する可能性が示唆された。

キーワード：幼稚園図書室、絵本、読書環境、幼稚園、絵本の部屋

1. 研究目的および先行研究の状況

幼稚園図書室とは、幼稚園に設置された図書室やそれに類する施設を指す。

図書館（図書室）は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校においては、学校図書館法により設置が義務付けられているが、幼稚園はこの法律の対象外である。幼稚園図書室については、幼稚園設置基準第11条に「設置に努めなければならない」と規定されており、設置は各幼稚園の努力義務とされている。学校図書館法で定められた運営規定も幼稚園図書室には適用されないため、図書室が備えるべき要件や運営に関する指針等は整備されていない。

幼稚園には図書室の有無にかかわらず、絵本や紙芝居、図鑑などの幼児向け書籍が揃えられ、保育活動で活用されているのが一般的であるが、図書室の設置によって新たな可能性が広がると考えられる。また、図書室の機能を把握することで、図書室を置くことのできない幼稚園においても、現在の環境の中で取り入れられる要素が見つかり、子どもたちが絵本と出会う機会やその環境の改善につながる可能性もある。

先行研究では、矢野（2015）が「絵本との出会いが子どもの精神的安定や感情の動きを促し、居場所となる」¹と幼稚園図書室の意義を述べているが、幼稚園設置基準第11条に基づき、図書室の設置は全ての幼稚園で実施されているわけではないため、読書環境は各園に委ねられている現状がある。また、鯨岡・野口（2013）は、横浜市内の幼稚園を対象とした実態調査において、図書室の設置率が46.2%であり、蔵書冊数にも幼稚園間で大きな差があることを明らかにしている²。中島（2006）の調査でも、幼稚園図書室は「子どもが本を楽しめる場所」として重要だが、

運営や管理に関する明確な基準がないことが課題として挙げられている³。

これらの先行研究を踏まえ、本研究では、最新の幼稚園図書室の現状と課題を把握し、これまでの研究が主に「図書室」としての機能に焦点を当ててきたのに対し、保育の中での利用状況や、子どもが絵本を楽しむ空間としての「環境」にも焦点を当てて分析を行う。

2. 調査概要

調査は、質問紙法かつ郵送調査法にて行った。調査対象は、西宮市のホームページに掲載された「私立幼稚園・認定こども園（幼稚園として利用）について」⁴および「西宮市幼稚園案内（市立幼稚園）」⁵に掲載された公立幼稚園、私立幼稚園、認定こども園の全52幼稚園である。調査期間は2024（令和6）年8月22日から9月20日（消印有効）までとした。調査の結果、有効回答数は26、有効回答率は50%であった⁶。

調査は、基礎統計として数値で回答する項目と、選択肢を示して回答する項目、自由記述の項目の混合方式とした。

質問項目は、幼稚園の図書（絵本）に関連する項目、幼稚園図書室に関する項目、図書（絵本）の貸出に関する項目に大別される。このうち、本研究では、幼稚園図書（絵本）に関する項目および幼稚園図書室に関する項目について検討した。

なお、倫理的配慮として、武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻の倫理綱領に基づき、アンケート郵送時にアンケート回答が任意であることや、アンケート結果の内容は教育・研究・実践活動にのみ利用しその他の用途では用いないこと、情報管理の場所および方法を説明した文

* 武庫川女子大学（Mukogawa Women's University）

** 大阪教育大学連合教職大学院・大学院生（Osaka Kyoiku University United Graduate School of Education・graduate student）

書を同封した。

3. 調査結果および考察

(1) 幼稚園の図書（絵本など）について

まず、幼稚園図書室の設置の有無にかかわらず、調査に回答した幼稚園の絵本に関する状況を確認する。

① 調査対象園および回答者について

本調査では、52 園の幼稚園にアンケートを送付し、そのうち 26 園から回答を得た。回答率は 50% であり、公立と私立の割合は、私立が約 73% (19 園)、公立が約 27% (7 園) であった。26 園の園児規模ごとの園数は表 1 に示す通りである。

表 1 調査対象園の園児規模ごとの園数（公立・私立の別）

	公立	私立	計
50名未満	6	2	8
50名以上100名未満	1	4	5
100名以上150名未満	0	4	4
150名以上200名未満	0	4	4
200名以上250名未満	0	3	3
250名以上300名未満	0	2	2

(幼稚園数)

アンケートの主な回答者は、園長が 14 名 (54%)、主任が 5 名 (19%)、絵本担当者が 3 名 (12%)、副園長・教頭が 2 名 (8%)、その他が 2 名 (8%) であった。

②蔵書数の把握について

幼稚園の図書（絵本等）の蔵書数に関して、「把握していない」と回答した園は 10 園 (38%)、「おおよその数を把握している」とした園は 15 園 (58%)、「正確に把握している」とした園は 1 園 (4%) であった。多くの幼稚園が蔵書数を正確に把握していない背景には、蔵書管理の方法に課題があると考えられる。

本調査では、蔵書管理方法についても尋ねた。26 園中、回答があったのは 15 園であり、Excel や Word などの一般的な PC ソフトを使用している園が 11 園 (73%)、手書きのカードや冊子で管理している園が 4 園 (26%) であった。専用の図書管理ソフトを現時点で導入している園はなかったが、「一般的な PC ソフトを使用している」と「カードや冊子で管理している」と回答した園からそれぞれ 1 園ずつが、現在、専用の図書管理ソフトへの移行中であるとの付記があった。

絵本をはじめとする図書は、幼稚園の財産であり、適切な管理が求められる。蔵書管理を電子化することで、重複購入の回避や、条件やキーワードを用いた絵本の検索が容易になるため、保育活動において絵本をより効率的に活用できるようになる。したがって、蔵書管理の電子化は、保育の質の向上を目指す上で重要な課題の一つであるといえる。

③蔵書数

幼稚園の蔵書数について「おおよそ把握している」または「正確に把握している」と回答した 16 園に対し、実際の蔵書数の記入を依頼したところ、1 園が無回答であり、残りの 15 園の蔵書数は図 1 に示す結果となった。蔵書が最も少ない幼稚園は 400 冊、最も多い幼稚園は 6500 冊であり、平均は 2428 冊であった。400 冊と回答した幼稚園は園児数が 200 名を超える大規模な幼稚園である一方、園児数が 50 名以下の幼稚園でも 2000 冊から 4000 冊の蔵書を持つ園があることから、園児数と蔵書数が必ずしも比例しているわけではない。本研究では調査対象園の創設年度については確認していないが、絵本をはじめとする図書は比較的長期間使用できるため、歴史のある幼稚園ほど蔵書数が多いという傾向も考えられる。

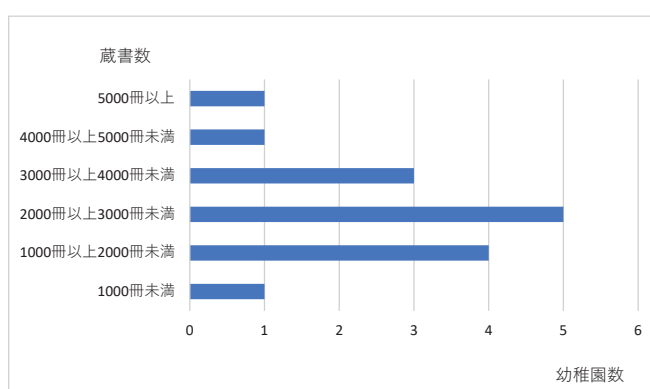


図 1 蔵書数別の幼稚園数

④図書（絵本など）の予算について

「今年度の図書（絵本）購入の予算はいくらですか？」という質問に対し、26 園中 15 園が具体的な金額を回答した。結果は、予算が 2 万円台の幼稚園が 4 園、3 万円台が 1 園、4 万円台が 1 園、5 万円台が 4 園、7 万円台が 1 園、8 万円台が 1 園、10～15 万円台が 2 園、30 万円台が 1 園であった。図書にかかる予算は 2 万円台と 5 万円台がボリュームゾーンであるが、図書に非常に多くの予算を割く幼稚園もあり、15 園の図書平均の予算額は 68,533 円であった。このように、低予算の幼稚園が多い反面、予算が突出して多い幼稚園もあるなど、図書費に関しては幼稚園による差が大きいことが分かった（図 2 参照）。

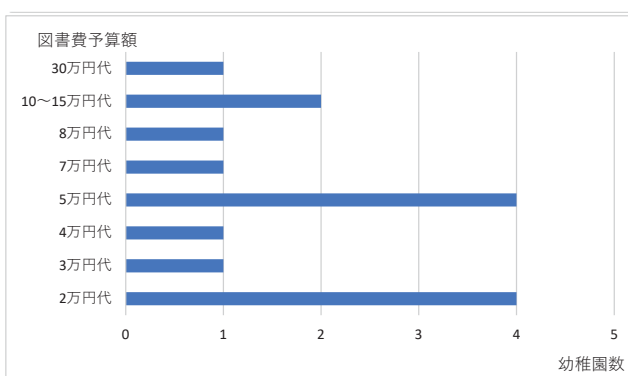


図 2 図書費の予算額

なお、図書予算に関して無回答が 5 園であり、その他に「未定」や「決めていない」「設定なし」「予算化できていない」といった理由で、実際には図書を購入しているものの、図書費としての予算を明確に設定していない園が 6 園あった。

⑤図書（絵本）全般に関する担当者

「図書（絵本）全般に関する担当者はいいますか？」という質問に対して、「いる」と回答した幼稚園は 18 園（69%）、「いない」は 7 園（27%）、その他が 1 園（4%）であった。

担当者がいると回答した 18 園に、担当者の役職を記入してもらったところ、担任、絵本担当（分掌）、主任のほか、非常勤職員、フリー教諭（図書係）、研究加配など、多様な回答が見られた。

また、担当者の主な業務内容について自由記述欄を設けたところ、「絵本の管理」「新規購入絵本リストの作成」「絵本の発注」「絵本の修繕」といった管理業務のほか、「図書の貸出」「読み聞かせ」「絵本カードの作成」「色ラベルの貼付」「季節ごとの本の入れ替え」など、子どもたちの図書利用に関連する業務も挙げられていた。さらに、幼稚園図書室がある園では「図書室の運営」「図書室の環境整備」といった業務も担当者の役割として報告された。また、職員だけでなく、園児の父母と協力している園も複数見られた。

⑥図書の選書について

「図書の選書に関する基準やルールの有無」についての質問には、26 園中 24 園から回答があり、「有り」と回答した園が 6 園（25%）、「無し」が 18 園（75%）であった。

選書の担当者は各園でさまざまだが、最も多いのは「担任」である。担任が希望する絵本を予算の範囲内で購入する園や、「各学年の毎月の絵本は前年度の担任が選び、園全体で使用する本は主に園長が選書する」という幼稚園、「業者が薦める絵本が園にないジャンルであったり、園児に必要なと判断した場合に園長が購入を決定する」といった声も聞かれた。図書の購入は予算との兼ね合いもあり、自由に選ぶことが難しいため、各園に適した選書のスタイルがあると考えられる。

公立幼稚園からは、「読んでごらんおもしろいよ」⁷のブックリストに選定された絵本を購入しているという回答もあった。このブックリストは、西宮市学校図書館協議会と西宮市立図書館の共催で作成している図書目録で、図書館司書や幼稚園、小中学校の教員らが多くの新刊絵本・児童書を読み、幼児から中学生におすすめの 75 冊を紹介したものである。また、公立図書館でも対象年齢別のおすすめ絵本リストを作成していることが多く、これらのブックリストは私立幼稚園や保育所、こども園でも選書の参考になるだろう。

一方、「図書の廃棄に関する基準やルール」についての質問には 26 園中 24 園から回答があり、「有り」と回答した園が 5 園（21%）、「無し」が 19 園（79%）であった。

このように、図書の購入や廃棄に関する明確な基準を設けず、各園の状況に応じて対応している幼稚園が多いことが明らかとなった。

⑦幼稚園の絵本や紙芝居への意識について

「貴園では絵本や紙芝居をどの程度重視していますか？」という設問についての回答結果をまとめたものが表 2 である。「とても重視している」が 21 園（81%）、「やや重視している」5 園（19%）であり、重視していないと回答した園がなかったことから、幼稚園において絵本や紙芝居を重視し、保育をおこなっていることがわかる。

表 2 絵本や紙芝居を重視しているか

	園数
とても重視している	21
やや重視している	5
それほど重視していない	0
重視していない	0

一方で、「保護者は貴園の絵本や紙芝居などを用いた保育にどの程度期待していると思いますか？」という設問への回答結果を表 3 に示した。「とても期待している」と回答したのが 9 園（35%）、「期待している」と回答したのが 16 園（61%）、「それほど期待していない」1 園（4%）、「期待していない」0 園（0%）という回答結果であり、大半の園では保護者から絵本や紙芝居を用いた保育に対する期待があると認識していることが分かった。こうした認識にもとづき、園内での絵本等の読み聞かせの実施や、図書の整備等がおこなわれていることがわかる。

表 3 保護者は絵本や紙芝居を用いた保育に期待しているか

	園数
とても期待している	9
期待している	16
それほど期待していない	1
期待していない	0

⑧担任が絵本や紙芝居を読む頻度について

「クラス担任がクラスの子ども（集団）に対して絵本や紙芝居を読む頻度を教えてください。」という設問に対する回答結果を示したのが表 4 である。絵本を読む頻度が週に数冊程度という園もあったが、1 日に 1 冊もしくは 2 冊読む園が多いことが分かった。中には毎日 3 冊以上読み聞かせを行っている園もあり、このような日々の読み聞かせの積み重ねによって、幼稚園によって子どもが触れる絵本や紙芝居の量にはかなりの差が生じることが明らかになった。

表 4 担任が絵本や紙芝居を読む頻度

	園数
毎日、3冊以上	2
毎日、2冊	10
毎日、1冊	13
週に数冊	1
月に数冊	0

また、これに関連して、絵本等を読む頻度はクラス担任によって異なるのかを問う設問に対しては、「差はない」と回答した園が 23 園(92%)、「差がある」と回答した園は 2 園(8%)であり、大半の幼稚園では読み聞かせの頻度を園内で統一していることが明らかとなった。なお、この質問については無回答が 1 園あった。

(2) 幼稚園図書室について

以下では幼稚園図書室に関する調査結果を分析し考察を行う。

① 幼稚園図書室の設置について

「保育室以外に幼稚園図書室(幼稚園設置基準に基づく施設)はありますか?」という設問に対し、「ある」と回答したのは 15 園 (62.5%)、「ない」は 9 園 (37.5%) であった。なお、この質問については無回答が 2 園あった。

幼稚園図書室の設置については、鯨岡・野口 (2013) ⁸ の横浜市の調査では設置率が 46.2%であり、山路・浅木・鄭 (2023) ⁹ の小山市の調査では 44%であった。

幼稚園図書室は必須ではないことから設置しない園も多いが、西宮市の幼稚園では先行研究と比較して設置率が 10%以上高いことがわかった。

以下では、幼児図書室があり具体的な図書室の形態が明確に回答された 15 園を対象として、幼稚園図書室の利用方法や環境を明らかにする。

② 幼稚園図書室の形態

幼稚園図書室が「ある」と回答した 15 園に、図書室の形態を「独立した部屋」「独立した建物」「建物内のオープンスペース」から複数回答可として選択してもらった。

無回答の 1 園を除く 14 園中 10 園は「独立した部屋」、3 園は「建物内のオープンスペース」、1 園は「独立した建物」(幼稚園図書室として利用)を持ち、さらにオープンスペースに絵本コーナーを設置していた。

各園での絵本図書室の名称はさまざまで、最も多いのは「絵本の部屋」(平仮名表記の園も含む)で、6 園がこの名称を用いていた。「〇〇文庫」という名称を使用している園は 2 園(うち 1 園は「絵本の部屋〇〇文庫」)であり、その他には「えほんのおうち」「絵本ルーム」「絵本コーナー」「図書コーナー」「図書室」などの名称があった。このように名前を付けることで、子どもたちが他の部屋(保育室)と区別しやすくなると考えられる。

② 幼稚園図書室でのボランティア活動について

幼稚園図書室で活動するボランティアの人数について質問したところ、無回答が 5 園であり、回答のあった 10 園中 7 園はボランティアがいないと回答した。多くの幼稚園でボランティアの協力の無い状況で幼稚園図書室を運営していることが分かる。

幼稚園図書室でボランティアが活動していると回答した 3 園についてみていくと、ボランティアの人数は 10 名

未満から 50 名以上と園により大きく異なっている。

50 名以上のボランティアが活動する幼稚園では、ボランティアが幼児個人への読み聞かせを行っている。ボランティアが多数入ることにより、大人に個別に絵本を読んでもらう機会を作り出していることは注目に値する。それ以外の 2 園についてはボランティアの業務が貸出返却の手続き、図書の整理や修復など、比較的人手や時間の必要な業務を担っていた。

表 5 ボランティアの人数規模による活動内容の違い

ボランティアの人数	園数	ボランティアの活動内容
50人以上	1	園児(個人)への読み聞かせ
10人以上30人未満	1	集団への読み聞かせ、貸出返却の手続き、図書の整理、図書の修復
10人未満	1	集団への読み聞かせ、貸出返却の手続き、図書の整理、図書の修復

④ 幼稚園図書室の利用について

幼稚園図書室は必須の施設ではなく、その用途についても法令上の規定がないため、各幼稚園での活用方法も多様であることが予想された。

まず、幼稚園図書室を子どもたちが利用できる時間に関する質問(複数回答可)の結果を表 6 に示す。

表 6 幼稚園図書室を利用できる時間

	園数
いつでも利用可	3
自由遊び(保育者不在)	1
自由遊び(保育者在室)	8
クラス活動時	12
その他	3

無回答の 1 園を除く 14 園から回答があり、複数回答可という条件の中で、最も多い回答は「クラス活動時」、次いで「自由遊びの時間(保育者が在室時)」であった。既に述べたように、独立した部屋を幼稚園図書室として利用している幼稚園が多い。教職員がいない状態で子どもたちだけで利用することは、安全上の問題があるため、教職員がいるときに利用する園が多いのだろう。

「いつでも利用可」と答えた 3 園については、幼稚園図書室に教員が常駐している園、図書室が独立した部屋ではなく建物内のオープンスペースに設けられていることから職員の目が届きやすい園、または、園児数が少なく職員が目配りしやすい環境の園である。つまり、さまざまな要因により、職員の目が行き届く環境であるかどうか、図書室の利用制限の要否につながっている。

次に、幼稚園図書室をどのように利用しているのかについて複数回答可の形式で質問した結果を表 7 に示す。1 園は無回答であったため、14 園からの回答結果である。

多くの幼稚園では、子どもが自由に絵本を読んだり、保育者が読み聞かせを行うために使われていたり、担任が保

育室に置く絵本を図書室から借りることに利用されていた。

表 7 幼稚園図書室の用途（複数回答）

用途	園数
子どもたちが自由に絵本を読む	13
担任が保育室に置く絵本を借りる	12
保育者が読み聞かせをする	11
絵本の貸し出し	9
自由あそびのスペースとして	5
子どもが寛げるスペース	4
保護者やボランティアが読み聞かせをする	3

一方、少数ながら「子どもが寛げるスペース」として活用している幼稚園もあった。学校図書館では、図書館本来の機能に加えて「子どもの居場所」としての役割も期待されている。もちろん、司書が見守ることができる状況が前提である。幼稚園内でも、保育室から離れて気持ちを落ち着かせたいときに立ち寄れる場所が複数あることが望ましく、職員の目が行き届く場合には、幼稚園図書室がその役割を果たす可能性があるだろう。

次に、幼稚園図書室を一度に利用する平均的な園児数と引率者数について確認する。

回答のあった 14 園中の中で、「10～20 人未満」と回答した幼稚園が 9 園と最も多く、次いで「20～30 人未満」が 4 園、「流動的」が 1 園であった。流動的と回答した園以外はおおむねクラス単位の人数であるといえる。一方、引率者数は 2 名と回答する園が多かった。

その他、幼稚園図書室を利用する用途として、ボランティア（幼稚園図書室以外のボランティア活動）の活動場所であったり、未就園児向けのイベント等の際に利用されていることも分かった。

(3) 幼稚園図書室の環境について

以下では、幼児図書室があると回答した 15 園を対象として、幼稚園図書室の具体的な環境を明らかにする。

①設置環境について

幼稚園図書室が置かれている環境について、「職員室等から中の様子が把握できる」「外からは様子がわからない」のどちらに近いかを質問した。

回答があった 15 園の内 1 園は「廊下にスペースを設けているのでどちらでもない」と回答しどちらにも当てはまらなかった。その他の 14 園中 10 園（71%）が職員室などから中の様子が把握できる場所に図書室を設置していた。この 10 園中 5 園の幼稚園図書室は「独立した部屋」であり、残りの 5 園は「オープンスペース」や「独立した建物」などに設置されていた。

一方、「外からは様子がわからない」と回答した 4 園（29%）は、すべて「独立した部屋」に設置されている。

こうしたケースでは、安全面に配慮するため、図書室内に職員を配置する必要があるため、幼児の図書室利用に制限がかかる場合がある。

②幼稚園図書室に置かれている家具について

次に、幼稚園図書室に置かれている家具についての質問をした。個人用の机が置かれている園は無かった。個人用の椅子に関しても回答があった 15 園中 11 園が設置していない¹⁰。このように多くの園では幼稚園図書室に個人用の机や椅子を置かない傾向があることが分かる。

一方で、複数人で使える大きな机を設置しているのは 15 園中 4 園が無回答であり、回答のあった 11 園中 10 園が設置している。設置している 10 園に対して机の詳細を確認したところ、その内 8 園が 4 人用机を使用している。6 人掛けと回答する園は 1 園、何人用の机なのかは記入せず「おおきなテーブル」とのみ表現している園も 1 園あった。

このように複数人で利用できる大きな机を何個置いているか質問をしたところ、2 個と回答した園が 10 園中 4 園と最も多く、次いで 1 個、4 個、5 個以上と回答した園がそれぞれ 2 園ずつあった。

大きな机を置かない園もあれば、5 個以上置いている園もあり、幼稚園図書室の広さや、図書室の使用方法が多様であることがこのことから推察される。

ソファの設置について回答した園は 15 園中 4 園であった。その内 1 園はソファを設置しておらず、設置している 3 園については、8 人掛け 1 台、4 人掛け 2 台、2 人掛け 4 台と回答をしている。ソファを設置している 3 園は複数人で使える大きな机も置かれていて、子どもたちが友だちと共に座って絵本を読むことのできる環境が整えられていることが分かった。

以上の幼稚園図書室に置かれている家具についてのアンケート調査から、幼稚園図書室の標準的な家具の種類や数というものが無いことが分かる。複数人で絵本を読むことのできる環境を大切に作る園もあれば、家具をあまり置かず子どもたちがそれぞれ読みたい場所で過ごすことのできる環境を用意している園もある。

③床について

幼稚園図書室の床について回答した園は 14 園である。その内 12 園がフローリングの床であった。この中にはカーペットの床と併用している園が 3 園、畳と併用している園が 1 園ある。

フローリングの床ではない 2 園については、カーペットの床であると回答している。1 園は独立した建物として、幼稚園図書室が設置されており、もう 1 園は、独立した部屋の幼稚園図書室である。

フローリングであれば座るための椅子やソファがある方が落ち着いて本を読むことができるだろう。一方で床にカーペットが敷かれている場合は床で座って本を読むこ

とが想定されていると考えられる。床についても、どのような環境で子どもたちに絵本を読んでほしいのかという各園の思いが表れている。

④照明や室内の色彩について

幼稚園図書室の照明や室内の色彩について、「図書を読むのに適した色彩をしている」なのか「保育室と同じ」なのかについて質問をした。その結果、回答があった 15 園中 12 園が「保育室と同じ」と回答をし、3 園は「図書を読むのに適した色彩にしている」と回答をした。図書を読むのに適した色彩にするための具体的な工夫として「温かく落ち着くような色彩」「天井から自然光が入る」「少し黄色の色彩」の回答が得られた。これらの回答からは、子どもの読書環境として、幼稚園図書室内は通常の保育室よりも落ち着くような色彩、温かい色彩が望ましいと考えていることが分かる。こうした細やかな配慮も幼稚園図書室の環境構成に重要な視点であろう。

⑤幼稚園図書室内の絵本の分類や並べ方について

幼稚園図書室内の絵本の分類や並べ方について採用しているものを複数回答可の形で質問した。選択肢として示したのは、「作者の名前順」「作品タイトル順」「シリーズ絵本をまとめて配置」「季節に関する絵本をまとめて配置」「子どもの年齢に応じた絵本をまとめて配置」「絵本の種別ごとにまとめて配置」「その他」の 7 つである。

15 園から回答があり、「絵本の種別ごとにまとめて配置」を選択した園が 12 園、「シリーズ絵本をまとめて配置」を選択した園が 10 園と、多くの園でこれらの並べ方を採用していることが明らかとなった。

また、作者の名前ではなく、作品のタイトル順に絵本を並べる園も 5 園、子どもの年齢に応じた絵本をまとめて配置する絵本も 5 園あった。その他の分類方法として、作者を国内と海外で分類したり、科学、季節といったグループで分けるといった工夫をしたりしている園があった。また、子どもが視覚的に絵本のカテゴリーを把握できるように、カテゴリーごとに色分けしている園もあった。

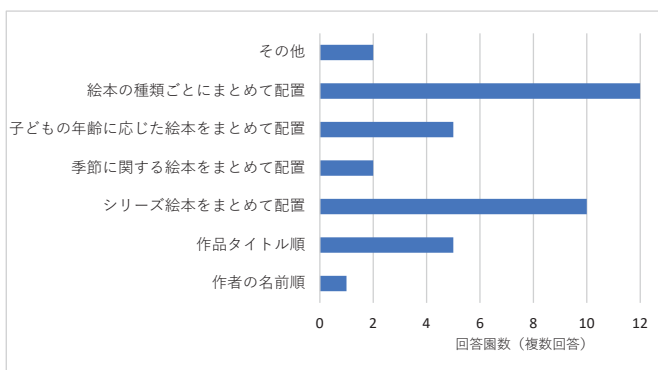


図3 絵本の分類・並べ方に関する各園の採用状況

このことから、幼稚園図書室に関して、絵本の分類方法や並べ方については、規定がないため、子どもたちが絵本を手に取りやすい配置を各園で工夫していることが

うかがえる。

⑥幼稚園図書室設置にあたり参考にしたもの

幼稚園図書室内の環境を考える際に、参考にしたものはあるか質問をしたところ「ある」と答えた園は 15 園中 7 園、「ない」と答えた園は 8 園であった。「ある」と答えた 7 園のうち 4 園は、他の幼稚園や認定こども園を参考にしている。また、2 園は地域の図書館を参考にし、残りの 1 園は業者のデザイナーに依頼したという結果であった。

⑦幼稚園図書室の環境について大切にしていること・改善したいこと

幼稚園図書室の環境について大切にしていることや工夫していること、改善したいことについての質問をした。大切にしていること、工夫していることについては 15 園中 13 園から回答があった。

・大切にしていること

幼稚園図書室の環境として大切にしていることとしては、「子どもたちの気持ちを大切に、読みたい、知りたい、自由に本を選び楽しんでもらう」「情緒豊かな子どもを育てたいと思っているので、できるだけ色々なジャンルから絵本を選ぶ」等である。その他に子どもたちが自由に好きな本を読める環境や絵本だけに集中できるようにクラスごとに頻繁に利用するなど、子どもたちに絵本を手にしてほしい、興味をもってほしいという保育者の思いがうかがえる。

・工夫していること

幼稚園図書室の環境として工夫していることとしては、「自分が思う本を選びやすいような配置を考えている」「向きをそろえてマークのところになおせるように分類毎で色を変えている」「子どもたちに絵本が表紙から見えること」等、子どもたちが自ら読みたい絵本を選びやすいように図書を配置していることが分かった。また、視覚からも絵本を楽しむことができるように、おすすめの本を掲示したり新刊や季節の本の表表紙を見せて配置する、面展台を利用したりするなどの工夫もされている。また、「ゆったりとくつろぎ絵本を楽しめる空間にしている」「読みたいときに、読める環境・大人に読んでもらえる環境」と回答があり、このことから絵本を読むだけでなく、くつろげる空間・安心できる空間として幼稚園図書室を考えていることもうかがえる。

・改善したいこと

幼稚園図書室の環境として改善したいことについての回答は、大きく分けて①蔵書管理・システム問題、②図書の配架に関する問題、③図書の量に関する問題、④施設設備、⑤利用促進に関する問題の 5 つがあった。

この中で特に多かったのは①蔵書管理・システム問題と②図書の配架についての問題であり、回答があった 12 園の内それぞれ 4 園ずつがこれらを課題としてとして挙げ

ていた。①蔵書管理・システム問題については、返却された本の管理や貸出システムの導入、蔵書管理をデータ化したいがその技量をもった人材がいないこと、導入のための経費や人材の問題があげられている。②図書の配架に関する問題については、本が片づけにくいほど本棚につまっており整理がしづらいことや、スペースの確保が難しいなど保管場所・方法に悩んでいる園が多い。

次いで 2 園が③図書の量に関する課題について回答しており、具体的には「絵本を増やしたい」園もあれば、「人数に応じた適正冊数の整理」を課題として挙げた園もある。こうした声からも、幼稚園における図書の蔵書数は、園児数や図書のためのスペースにみあった状態であることが必要であることが分かる。

④施設設備に関する問題があると述べた園は 1 園あり、「机や椅子などの配置」について言及している。

⑤利用促進についての問題も 1 園が改善したい点として挙げている。具体的には「コロナ禍以前に実施していた親子での利用を再開し、保護者にも子どもたちと一緒に絵本の楽しみを共有してもらいたい」という回答があった。

このほかにも、コロナ禍以降に絵本の消毒をしてから図書を本棚に戻している園や、コロナ禍以降、貸出の頻度や冊数が少なくなった幼稚園もあった。このようにコロナ禍の影響で幼稚園図書室の運営業務の負担増加や、子どもの絵本とのかかわりの減少といった負の状態が続いている幼稚園もあった。

4. まとめ

本研究では、幼稚園図書室の現状と課題について、西宮市の幼稚園を対象に調査を行った。調査結果からは、幼稚園図書室の有無や運営方法、図書の管理・選書基準、図書室の環境についてなど、各園における取り組みが多様であることが明らかになった。幼稚園図書室は幼稚園に必須の施設ではないため、設置状況や蔵書の数、管理体制は園ごとに異なり、統一的な基準や指針が存在しない現状が確認された。

特に、多くの幼稚園で蔵書管理が十分に行われていないことや、貸出システムの整備が不十分であることが課題として明らかとなった。これらは、幼稚園図書室はもちろんのこと、幼稚園図書室のない幼稚園においても業務を効率的かつ効果的に活用するためには、今後改善が求められる領域である。また、幼稚園内に子どもたちが自由に本を選び、絵本に親しむ環境、すなわち読書活動を充実させるための環境を整備し、保育の中で積極的に利用できる状況を作り出すことが大切であると考えられる。そのための人員確保が必要となるだろう。

今回の調査に協力していただいた幼稚園の中には、幼稚園図書室に職員が常駐している園もみられた。非常勤職員が複数名おり幼稚園図書室に常駐しているという。このよ

うな環境を作るためには人件費等の負担が発生するため、すべての幼稚園で同様の対応をすることは現実的とはいえないだろう。また多くの園が課題として挙げた蔵書管理用の専門的なシステムの問題についてもその導入や維持の費用負担は決して軽いものではない。

しかし専門的なシステムを用いずとも、Excel 等の一般的なソフトを用いて蔵書管理をする際に、絵本の書誌情報だけでなく、絵本の内容に関するキーワードや、保育に活用するためのキーワード、所蔵場所といった項目を作ること、絵本の重複購入の問題を回避したり、保育に用いる絵本を簡単に検索して手元に用意することが可能になり保育者の業務負担の軽減にもつながる可能性もある。幼稚園ごとに個別に検討するのではなく、「幼稚園同士が協力」することと「公立図書館、学校図書館との連携」をすることである。これにより、幼稚園の蔵書管理にかかる負担を軽減しつつ、より充実した読書環境を提供することが可能になるだろう。

さらに、地域の公立図書館や学校図書館との連携は、幼稚園図書室がない園でも、図書館資源を有効に活用できるようになる。また図書館司書との協力を通じて、図書の分類、配架に関する助言、絵本の選書や保育活動に適した図書の活用方法についての助言を得ることができると、幼稚園が単独で検討するよりも効率的に幼稚園の読書環境の整備や改善が期待できるのではなかろうか。

また、幼稚園の努力だけでなく、幼稚園図書室の役割や設置に関する全国的なガイドラインの策定や、各幼稚園の読書環境の整備のための国や地方自治体による支援策の充実も不可欠である。

また、本調査を通して、幼稚園図書室が幼児の読書体験を支える重要な空間として機能する可能性について明らかになった。幼稚園図書室は単に絵本が保管されている場所ではなく、絵本の分類や並べ方に工夫が凝らされている点が特徴的である。具体的には、作品名順や作者ごとの分類だけでなく、年齢に応じた絵本の配置や季節に関連する絵本の特集が行われている園も多く見られた。これらの工夫には、子どもたちが好きな絵本を見つけやすくするとともに、新たな絵本との出会いを促すという保育者の意図が込められている。

絵本を楽しむ環境の整備においても、多くの幼稚園で工夫が施されていた。例えば、子どもたちが落ち着いて絵本を楽しめるように、床材や照明に配慮している事例や、一人で集中して絵本を読む時間と、友達や保育者と一緒に絵本を楽しむ時間の両方を考慮した家具の設置が挙げられる。机や椅子、ソファなどの選定にも、子どもたちが多様な方法で絵本を楽しむことができるような工夫が反映されている。

幼稚園図書室は必置の施設ではないため、その環境や活用方法については各園独自の創意工夫が可能である。本研

究で明らかにした知見が、幼稚園図書室を通じた子どもの豊かな読書体験を促進する一助となれば幸いである。

5. 今後の課題

本研究では、西宮市内の幼稚園への郵送によるアンケートの結果を用いた分析をおこなった。これにより、幼稚園での絵本に関する状況は多様であり、読書環境にも差があることがわかった。一方で本研究では、それぞれの園での実際の子どもたちと絵本のかかわりや、絵本の貸し出しを通じた家庭との連携に関しては研究することができていない。今後は、幼稚園図書室を訪問しておこなう実地調査を拡大し、郵送法のアンケートでは見えてこない、子どもと絵本のかかわりや保育の中での絵本の活用方法の実際についてのデータを収集することで、より保育実践に資する研究を進めていくことを課題とする。

注

- (1) 矢野光恵 (2015). 子どもが選択した絵本からみる読書傾向と保育者との関連性: A 幼稚園年長児の一年間の貸出調査から. 学校図書館学研究, 17, p.41.
- (2) 鯨岡真一, 野口武悟 (2013). 幼稚園図書室の現状と課題: 横浜市内の幼稚園を対象とした調査を通して. 図書館総合研究 / 『図書館総合研究』編集委員会 編, 13, pp.1-14.
- (3) 中島正明 (2006). 幼稚園の読書環境に関する研究—広島県内幼稚園図書室に関する調査を中心にして. 安田女子大学大学院文学研究科紀要 教育学専攻, 12, p.23.
- (4) 西宮市ホームページより「私立幼稚園・認定こども園 (幼稚園として利用) について」
<https://www.nishi.or.jp/kosodate/hoikujo/yochien/nishinomiya-yochien/shiritsu-yochien.html>
更新日: 2024 年 5 月 9 日, 入手日: 2024 年 10 月 10 日
- (5) 西宮市ホームページより「西宮市幼稚園案内 (市立幼稚園)」
<https://www.nishi.or.jp/kosodate/hoikujo/yochien/nishinomiya-yochien/annai.html>
更新日: 2024 年 4 月 15 日, 入手日: 2024 年 10 月 10 日
- (6) 回答送付期限の後に届いた 3 園の回答については、今回の調査結果には含めていない。
- (7) 「読んでごらんおもしろいよ」のリーフレットの編集・発行は西宮市立図書館、発行所は西宮市産業文化局生涯学習部読書振興課である。
- (8) 注 2 に同じ。
- (9) 山路千華, 浅木尚美, 鄭曉琳 (2023). 小山市の保育施設における絵本環境の現状と保育者の意識に関する調査. 白鷗大学論集, 37 (2), pp.193-208.

(10) 個人用の椅子を置いている 4 園については「4 脚」「7～8 脚」「14 脚」「20～30 脚」と回答している。

引用文献・参考文献

- ・ 鯨岡真一, 野口武悟 (2013). 幼稚園図書室の現状と課題: 横浜市内の幼稚園を対象とした調査を通して. 図書館総合研究 / 『図書館総合研究』編集委員会 編, 13, pp.1-14.
- ・ 中島正明 (2006). 幼稚園の読書環境に関する研究—広島県内幼稚園図書室に関する調査を中心にして. 安田女子大学大学院文学研究科紀要 教育学専攻, 12, p.23.
- ・ 山路千華, 浅木尚美, 鄭曉琳 (2023). 小山市の保育施設における絵本環境の現状と保育者の意識に関する調査. 白鷗大学論集, 37 (2), pp.193-208.
- ・ 矢野光恵 (2015). 子どもが選択した絵本からみる読書傾向と保育者との関連性: A 幼稚園年長児の一年間の貸出調査から. 学校図書館学研究, 17, p.41.

謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケートにご協力いただきました西宮市内の公立・私立幼稚園の皆さまに心より感謝申し上げます。また幼稚園図書室の見学をさせていただきました幼稚園のみなさまにも厚くお礼申し上げます。